ラブせつ短編もの集

嶋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ラブせつ短編もの集

【Ｎコード】
Ｎ８６５６Ｗ

【作者名】
嶋

【あらすじ】
ラブせつ物語の短編を１話ずつ連載してみました。月に１回は更新していきたいと思っていますので、全部で４、５回くらい書いていきたいと思っています。ラブとせつなの二人だけの物語を是非見てください。
二人の愛。二人だけの物語。

秋の頃に（前書き）

まだ落ち葉の時期でありませんが、早いけど書かせてもらいます。
秋の感覚を二人だけで過ごすラブ説を書いてみました（笑）。

秋の頃に

せつなと一緒に公園で秋の季節を味わう為に二人で木の近くに落ちている紅葉とどんぐりを拾いに来た。

「紅葉だわ。」

「もう秋の季節ね。」

「前はノーザが初めて現れてせっかくのどんぐりが拾えなかったけど、今年は二人で一緒に拾えるといいね。」

「今年はラブと一緒にどんぐりや紅葉とかが拾えるから二人で秋を過ごしましょ。」ラブとせつなは二人でこの公園内に落ちているどんぐりや紅葉など集めたり、二人は秋の季節しかない季節の物を秋の思い出に残そうとした。

「こうして二人で取ると楽しいわ。」

「二人で一緒にたくさん集めて持ち帰ったら記念に飾ったりしたいわ。」

「せつな、他にも松毬とかも拾って集めたいわ。」

「じゃあたくさん集めて家に持ち帰らないとね。」

「じゃああたしはこの辺りの方を集めてくるからせつなはそっちの辺りの方をお願い。」

「わかったわ。」二手に分かれてそれぞれ紅葉やどんぐりや松毬などを拾い集めに、ラブはブランコ周辺の方に落ちている物を探し回ったりして、せつなは滑り台の周辺の方へ向かってそこに紅葉やどんぐりや松毬などが落ちていないか見回ったりした。

「♪、どこに落ちているのかな？」気楽になりながら楽しく笑顔で歩き回りながら顔を下に向けて周辺をよく見回った。足下を歩いていたらふっと、音がした。

「あっ、どんぐりだわ。」足下に押していたのはどんぐりだったら、ラブはそのままどんぐりを拾った。

「どんぐり、ゲットだよ！あはっ。そう言いながら他にも紅葉なども集めようとした。せつなは滑り台雄編の穂を探し回りながら、偶然ラブと同じくどんぐりを見つけた。

「・・・・。」どんぐりを拾って、そのまま見つめるせつなは。

「可愛いわ。ラビリンスにはこういったのはなかったけど、ここにはそう言ったのがたくさんあっていろいろあるんだわ。」故郷のラビリンスにはどんぐりや紅葉や松毬などがそう言ったのがなく、ラビリンスは今までメビウスによる管理国家であってほぼ背景が未来都市に近く、あらゆる物などを管理し、人の寿命ですら管理されている。それからどんぐりなどをいっぱい集めて二人はそのまま持ち帰って歩きながら自宅へ向かおうとした。

「ラビリンスももう少しでこの世界と同じように元気で明るくなれるわ。」

「そうだね、もうあれから1年以上は経っているわね。」

「戦いが終わってからはなんだかあんまりみんなと会う機会がぜんぜんだね。」

「そうね、私もまたラブにたくさん過ごしたいわ。」

「あたし、せつなとずっと一緒にいたいわ。」

「ラブ？」

「せつなとずっと一緒にいて二人だけで幸せになりたいの。」

「ラブ。」

「せつな。ねぇ、私だけの物になって。」

「・・・・・いいわ。あなたがそこまで言うのなら、私もラブを私だけのもにしていい？」

「あたしとせつなはお互い二人だけの物だから。」

「私とラブも同じように二人だけの物だから誰にも渡さないわ。」
二人を想う心がお互いを誰より大切に想い、二人がずっと一緒にいたいという強い願いが込められていた。

「せつな。」

「ラブ。」

「二人だけで一緒にいる日を。」

終わり

秋の頃に（後書き）

ラブとせつなの秋物語りはみましたか。ラブ説を書いちゃうとなんだかラブラブって言うオーラが出てすぐに書いちゃうんですよ。ラブ説は永遠不滅で絶対愛です。

１２月か来年の１月にフレプリの最高地区版を書いていきたいと思っています。

寒さと厳しさ（前書き）

そろそろ衣替えの季節、ラブせつなは二人で一緒にお出かけに行くのであった。そこで時運にとっての厳しさとは？

寒さと厳しさ

１０月に入ってから季節もそろそろ寒い時期に入り、四ツ葉町の方もそろそろ寒い時期に向けて衣替えの季節をしようとしていた。

「ふあー、なんだかとっても涼しくなってきたわぁ～。」服装も秋用の服装に於呂も替えして暖かい格好で外に出るラブとせつな。

「なんだか寒いわね。」

「秋になってからもうそろそろ寒い季節がやってきたみたいなんだから。」

「だんだん寒くなると冬にはもっと寒く鳴るみたいだからつらいわ。」

「ラビリンスの方なんか管理国家だった頃はもっと厳しかったのよ、それに比べれば寒い方なんかはまだいい方だわ。」かつてラビリンスはメビウスによる管理体制の元あらゆるものや寿命なども管理されていて、自由は平穏のない社会であった。

「ごめん、寒いのが苦手で。」

「気にしないで、もう今のラビリンスはもうそんなのはないから。ねぇ、ラブ？」

「ん？」

「ラブは今まで厳しいと思った事は何かある？」せつなはラブに今

まで厳しかったことでどういう事で厳しいと思ったのか問わせてた。
「私が厳しいと思ったこと？うーん、いろいろあるんだけどなかなか思いつかないわ。」
「もうラブったら相変わらずね。」
「えへへ、だって。せつなは今まで厳しいと思ったことってある？」
「私にとって厳しいこと？」
「イースだった頃の自分のつらくて厳しいことやプリキュアになってから厳しいこととかは？」
「私は？」
「？」
「私は今を生きていく事が厳しいことかと思っているわ。どうしては人は生きているのか？人は何の為に生きていて何をしているのか、そのためには何かをやっていかなければならないと思ったのよ。」
せつなは人は何の為に来ているのか、人はなぜ生きていくには何かをやっていかなければならないというのが厳しさだと思ったから。
「困ったときはみんなに助けられて、お互い助け合って協力しあってやっていきながらその厳しさを乗り越えていく。」
「いつもみんなに助けられながら助けられてきたんだね。」
「私やラブも困ったときはいつもお互い一緒に助け合ってやってい

きながらそうしてきたのよ。」

「美希タンやブッキーにも毎回助けられていつもやってきたのよね。」

「助け合うのが一番ねぇ。」どんなに厳しいことがあるとき人はお互い助け合っていきながら、その関係を深めていき、人は一人でやるのでなく人と一緒にやっていきながらこれから先を歩んでいく。

「ねぇ、せつな。カオルちゃんのドーナツ食べに寄っていかない？」

「そうね、せっかくだから美希やブッキーも読んで一緒に食べに行かないと。」

終わり

寒さと厳しさ（後書き）

1ヶ月ぶりの更新です。もうじきそろそろ寒くなる季節ですね。
ラブせつ、ラブラブッぷりも今後も書いていきたいです。涼しくなればもっと寒くなるかもしれません。

ふたりを想う事（前書き）

ラブとせつな、二人が自分達の事をどう想っているのか。ラブせつ好きは是非見てください。

ふたりを想う事

「せつな。」

「どうしたのラブ？」

「あたし達の事ってどう思っているのかしら？」

「わたしがラブの事を。」突然ラブが自分達の事についてどう思っているのかと聞かれて、二人は今までお互いを想う事、二人を大切に想うその心かけ。最初は二人はお互い敵同士として戦い続けて、せつなはイースとしてラブに何度も戦いを挑み、そしてそんな自分が幸せに生きたいというその想いからアカルンが現れて、プリキュアとなり、プリキュアとして生まれ変わったせつなはラブ達と心を通わせて多くの出会いが彼女を変えた。

「わたしとラブがであって絡もう2年以上が経つわ、そして他に私たち以外のプリキュアとの出会いや一緒にであって大きく変える事が出来た。」

「あたしね、ずっと前から想っていた事があるのよ。せつなと結婚したいのよ。」

「えっ。」突然ラブの口から結婚という言葉が出てきてあまりに驚いたせつなは。

「ラブ、そのわたしは。」

「あたし、せつなをずっとずっとせつなの事を想い続けてきたのよ。

占いの館で出会ってからそれからずっとせつなの事を愛しているのよ。」せつなと出会ってからラブはずっとせつなの事を想い続けていて彼女の事を一番大好きで一番愛しているというラブにとってせつなはかけがえのない存在でもあった。

「ラブ・・・・・。」

「ねぇ、せつな。あたしとせつなの二人の・・・・・。」

「わたし、ラブの事を前からずっと想いたい事があったのよ。ラブを愛しているのよ。わたしだってラブと結婚して一緒にいたいよ！」

「せつな。」

「わたしはラブと二人だけでいたい。」

「あたしだってせつなの側にずっといたいよ。」二人のその想いは、二人がずっと一緒にいられる事であってラブとせつなはお互いの事を想い続けながら大切にわかり合う心がある。

「ラブ、わたし大人になったらラブと結婚してわたしとラブの子供だって産むんだから。」

「あたしだってせつなと二人で子供だって欲しいわ。女の子同士、二人だけの・・・・・。」

「その夢を実現できる為にも二人で一緒にかなえる為にも精一杯頑張りましょう。」

「うん。」二人は二人だけの夢を叶える日を一生懸命頑張っていき

ながら、その日々は遠くない日であろう。

終わり

ふたりを想う事（後書き）

今回も百合要素が強い文章で、ラブせつは愛しています。永遠不滅に。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8656w/

ラブせつ短編もの集

2011年11月17日17時32分発行